

1 学校教育目標

命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 —心身ともに健康で意欲的に学ぶ子の育成—

2 本年度の重点目標(めざす学校像)

- ①基礎基本の徹底を図る
- ②一人ひとりの居場所がある学級集団を創る
- ③社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底

3 本年度の経営方針

- ①子どもたちが学んだことを誇りに思える学校
- ②教職員が勤務したことを誇りに思える学校
- ③保護者・地域に開き、親しみのある学校

前期の取り組み概要(4月～8月)

- ▼教師集団の強化
チームとして機能するために、互いに聴きあう教師集団をつくる。同僚性の構築
- ▼生徒指導強化
到達目標の設定(3つに絞って必ず取り組む)。家庭との連携強化(子の変化に迅速に対応。連絡帳より電話、電話より家庭訪問)
- ▼学習習慣の徹底
朝の学習時間の有効活用、集中力向上で授業の質の向上、家庭学習の充実
- ▼補充学習の強化
気になる子への関わりを強化(放課後学習、長期休業期間の学習、土曜学習教室への参加呼びかけ)

前期の成果と課題

気力と体力を充実させる子への寄り添いがまず大切だと言える。一人一人が抱える課題にしっかり寄り添い一緒に考え解決し、一人一人の学びを保障したい。学習では、家庭学習の習慣作り(忘れ物含む)を呼びかけ、授業での集中力向上とともに家庭学習の充実を図る。児童の姿としては明るく素直、元気で活発な児童が多い。また、落ち着いた姿勢で集団行動がとれている。

8月

中間評価、全国学力学習状況調査の結果分析

9月

重点領域の設定(後期学力向上プラン)……一致団結(聴き合い学び合う授業づくり—誰もが集中している)

大項目

組織運営 学力向上・教員の資質向上 豊かな心・健やかな体 開かれ信頼される学校

中項目

学校組織 教育課程 研究推進 生徒指導 保護者・地域

小項目	①学校経営方針 ②校務分掌等の連携	①教育目標設定 ②教育課程の編成	①指導方法の工夫改善	①組織的な生徒指導 ②問題行動の指導 ③教育相談・児童理解 ④いじめ対策防止推進	①学校情報発信 ②学校(授業)公開 ③家庭・地域との連携
達成目標(前期) 具体的評価項目	①学校目標達成のための明確な方針 ②校務分掌、学年との連携	①全職員の学校教育目標への参画 ②学校の現状を踏まえた教育課程の編成	認め合い、支え合い、居場所のある学習集団作り 児童に寄り添い聴き続ける教師	①生徒指導体制の整備 ②自尊心の向上に向けた指導 ③問題行動への指導・対応 ④教育相談等への対応	ホームページの整備 学校だより等の配布 地域への公開、参観授業の実施 家庭との連携(ノータレビ・ノーゲームデーの実施)
具体的施策(前期) 取組と成果	①同僚性の重視(チーム意識・一致団結) ②校務分掌の工夫改善(創意工夫—役一人)	教職員総意のもと後期教育プランを設定するとともに、有効な教育課程を編成した	授業の質を高めるために、学年・学団で教材研究や授業研究会を実施 結果として一人2授業の公開と研究協議会を6回行った。	生活部を中心に生活指導体制の確立 全職員が同じ価値観で指導 スクールカウンセラーの取り組み 個人面談・家庭訪問を実施 いじめの未然防止・早期発見・解決	HPの随時更新、学校だより・学年・学級通信の発行 オープンスクールと保護者参加型授業 「天神川土曜学習教室」の充実
小項目の評価	①—4 ②—3.5	①—4 ②—3.5	4	①—4 ②—4 ③—4 ④—4	①—3.5 ②—4 ③—4
中項目の評価	4	4	4	4	4
達成目標 具体的評価項目	一人残らず教師の専門家としての成長を保障することはできたか。同僚性の構築はつくれたか。	職員組織としての共通理解(協働)の具現化を進めているか。	児童が認められ、学級の居場所があり、聴きあう学習集団がつくられているか。集中して授業に取り組んでいるか。ペアやグループを活かした授業づくりが行えているか。	問題行動のある子どもへの指導の充実が行われているか。自尊心の向上が図られた指導か。関係機関教育相談の有効活用を図れているか。いじめ対策防止活動の推進が行われているか。	HPや学校便りの細かな更新による情報発信が行われているか。保護者参加型の授業参観への多数参加が図られているか。学力向上委員会との連携を進め家庭力を高める取り組みが行われているか。
具体的施策 課題・改善方針	①合意形成過程のより一層の重視を図る ②各分掌の職務遂行意識・責任意識の高揚を図る。	基礎基本の徹底(ホテスト)教材開発(課題提供)書く(生活を綴る)取り組み朝会の有効利用(朝読書)幼少中の連携強化	児童の居場所がある学級集団作りを日々の授業を通して進める。子どもの学びを保障し、一人ひとりを大切にする授業づくりの改善に努める(グループを取り入れとジャンプのある課題を提供する)。公開研究協議会(2月1日)での成果と課題をまとめ繋げる。	課題確認と児童理解のため、月1回の部会(いじめ対策防止委員会)と、学期1回の研修で、校内全職員での共通理解を図る。解決のために教師の人権意識を高める。	HPの行事ごと更新 オープンスクールにおいて参加型授業を設ける。 SC21の学校企画やきららホールなどの地域行事に参加し、子どもといっしょに学びあう教師でありたい。
関係者評価	体育大会や音楽会などの行事を通して、先生方のチームワークのよさ、一致団結した先生方の姿が見えてきます。音楽会での児童のすばらしい姿勢は感動した。	互いが静かに話を聞いている。落ち着いたと感じた。児童の声を聴く姿勢が徹底している。寄り添って立つ先生方という感じがした。	学級集団作りは本当に大切だと思う。居場所があるということは人権が守られていると言う事。大切にしたい。そして、聴き合い学びあいを大切にした授業作りで学力を高めてください	下校時の子どもの様子が明るくなった。笑顔いっぱいあいさつしてくれる。学校で楽しいことがあるからなのでしょう。また、2月1日にあった公開研究会が児童にとってもいい機会になったのでしょうか。表情がいい。	さまざまな機会地域に出かけてきてください。先生方の生き生きとした姿は地域の者も子ども達も励みになる。地域としても子どもの動きがわかる大人集団を作っていきたいと思う。

平成26年度前期学力向上ビジョン…学びの共同体としての学校づくりの推進
—聴き合い学び合う授業づくり、一人一人の居場所がある学級作り・学校づくり—